

2009年11月7日

港澳粵日本研究大學聯合會

The University Alliance for Japanese Studies in HK Macau & GDP

香港マカオ広東日本研究大学聯合

設立總會記念講演

広東地域における大学日本語教育の現状

佟 君

(中山大学華南日本研究所)

20世紀1979年よりの改革開放以来、中国の各大学で日本語学科を設けるようになり、広東地域でも同じような状況となった。中山大学と広州外国語学院（現在の広東外語外貿大学の前身）を始め、暨南大学と華南師範大学にも日本語学科を設けた。当時は日本語学科が出来た大学はまだまだ少なかったのである。

ところが、21世紀に入ってからはこのような状況はがらりと変わってしまった。広東地域で相次いで日本語学科を設けるようになった。それらの大学は次の通りである。

華南理工大学

廣東工業大学

広州大学

廣東商学院

深圳大学

廣東海洋大学

五邑大学

韓山師範大学

仲愷農業工程学院

湛江師範学院

惠州学院

肇慶学院

広東白雲学院

広東培正学院

華南理工大学広州汽車学院（独立学院）

広東外貿外語大学南国商学院

広東商学院華商学院

広州大学松田学院

華南師範大学増城学院

北京理工大学珠海学院

吉林大学珠海学院

電子科学技術大学中山学院

これらの大学のほかに、日本語学科を持つ専門学院
大学は次の通りである。

廣東女子職業技術學院

廣東輕工職業技術學院

肇慶學院

深圳職業技術學院

私立華聯學院

廣東培正學院

廣東外貿外語大學南國商學院

華南農業大學珠江學院

順德職業技術學院

廣東工貿職業技術學院

廣東工程技術職業學院

廣東嶺南職業技術學院

廣東白雲學院

廣州涉外經濟職業技術學院

番禺職業技術學院

南海東軟信息技術學院

廣州市旅遊職業學校

廣州鐵路職業技術學院

廣東外語技術職業學校

肇慶工商職業技術學院

肇慶科學技術職業技術學院

廣州工商職業技術學院

廣州應用科學技術專修學院

南華工商學院

又、その外に現段階で日本語学科設立予定の学院大学もある。例えば、

広東技術師範学院（設立予定）

東莞理工学院（設立予定）

広州工程技術職業学院（設立予定）

2008年広東地域大学（45校—53校）日本語学科入試の受け入れ枠は3001人である。2009年度3500人に上るかも知れない。

豊田・本田・日産等の自動車メーカーを始めとする（広州市では600社、広東省では3000社に上る）日系企業の広東地域に対する投資もあって、広東省内の各大学日本語学科卒業生の就職率も結構高いパーセンテージに保っている。つまりほとんど100%近くの就職率となる。目下のところ、学科のスケールから見て外国語学科の中でも世界共通語としての英文という学科に次いで2番目の地位を占めている。しかも就職率の面では勿論ナンバーワンである。

今の中国では日本と同じように「英語＋1」という外国語学習パターンが流行っている。大学生は英語以外に何かの外国語をもう一つ選択して勉強している。勉強しない場合、大学を出た後の社会での競争力がかなり落ちてしまうのである。そういう訳で、日本語学科でない大学生も日本語を選んで勉強するケースが増えつつある。

そうすると、今日日本語を学ぶ大学生は、日本語学科大学生（大学院生を含む）、非日本語学科大学生（大学院生を含む）の第一外国語としての日本語と、第二外国語としての日本語との二様に分かれている。こうなれば、学習動機と学習意欲との問題も出てくる。

広東地域大学生の日本語学習動機は次の通りである。

- ①就職しやすいから
- ②日本の漫画が好きだから
- ③日本のアニメーション（動画）が好きだから
- ④日本のゲームが好きだから
- ⑤日本の料理が好きだから
- ⑥日本のファッションが好きだから
- ⑦日本の歌が好きだから
- ⑧日本の歴史が好きだから
- ⑨日本の文学が好きだから
- ⑩日本に留学したいから
- ⑪中国と同じ漢字があるから
- ⑫仕事に関わっているから
- ⑬昇進試験に合格しやすいから
- ⑭無理矢理に勉強させられたから

以上の日本語学習動機によっても大学生のそれぞれの勉学意欲もずいぶん変わってくる。勉強したがる学生の方は、勿論成績が良く、場合によっては、非専門で勉強する学生の方は案外専門の学生よりもいい成績が取れるケースも少なくない。これは大卒の就職活動や大学院生の受験からもそういう傾向が伺える。

広東地域大学生の日本語学習手法：

- ①教師やテキストによる伝統的な学習方法
- ②マン・ツ・マン式による日本人との学習方法
- ③メディア（新聞・雑誌・衛星テレビ（BS1/BS2・NHK WORLD TV）・HNK 国際ラジオ放送（NHK WORLD RADIO JAPAN）などの媒体）による学習方法
- ④マルチメディア（画像、動画、画像、ビデオ、オーディオ、ROM、RAM、テープ、CD、CD-ROM、VCD、HP 等）を利用する学習方法
- ⑤オンライン翻訳サイトによる学習方法
- ⑥漫画とアニメとの中文翻訳による学習方法
- ⑦歌謡曲（空オケ）による学習方法（特に発音練習のため）

以上のような手段によって日本語に関する5つの技能〈聞き・話し・読み・書き・訳〉を練習する。

その5つの技能を身に付けて日本語能力試験1級・日本語学科8級試験をパスするためにも、日本語学科授業内容と教科書については言及しなければならないと思う。

日本語学科授業内容はほぼ以下の通りである。

基礎日本語（1・2年低学年）

高級日本語（3・4年高学年）

日本語視聴説（LL教室使用）

日本語会話（テキストに基づく情景対話）

日本語文法（観点の違いによって要らないと言う教師があること）

日本語汎読（日本の歴史、文化、思想、或いは日本人の生活様式）

日本語作文（日記・読書感想・一般文章・応用文）

中日両国語翻訳（文字記号の転換）

中日両国語通訳（言語記号の転換）

中日両国語同時通訳（開設する大学は極めて少ないこと）

中日文学翻訳（言語文学専門として文学翻訳も重要視すべきこと）

日本概況（日本事情）

日本文化概説

日本文学史（教員講義）

日本近代文学（演習・ゼミナール）

日本古典文学（開設する大学は極めて少ないこと）

日本古語語法（開設する大学は極めて少ないこと）

※日本古典文学と日本古語語法との内容は、中国大学外国語教育指導委員会によって実施されている大学日本語学科 8 級試験の中にほぼ 20% の分量を占める。今の段階で、広東省の専門 8 級試験に参加する大学はあまり多くはない。

翻訳テキストの批評と鑑賞

（『吾輩は猫である』の中文訳本・『阿 Q 正伝』の日文訳本）

日本語新聞を読む

（『朝日新聞』・『読売新聞』・『毎日新聞』・『産経新聞』・『日本経済新聞』といった主要新聞を通して日本の政治・経済・社会・習俗等を理解すること）

異文化コミュニケーション

（言語と文化の角度から日本文化への理解、日本人ならではの思考法と発想と礼儀と習俗を理解すること）

日本経済

（経済大国日本の経済奇跡を探究）

日本企業の経営とマネジメント

（企業文化・経営理念・チームワーク）

ビジネス日本語

（ビジネスレターと模擬トレーニング）

ガイド用日本語

（日本観光知識・中国広東ローカル観光知識）

経済貿易翻訳

（経済貿易文献翻訳・ビジネスレター翻訳）

日本語概論

（言語単位・音声・音韻・語彙・語法（文法）・敬語・

文字・方言)

日本の歴史

(時代区分・年代・事件・人物)

日本文化史

(日本文化の特性・日本民族の思考法と行動様式・
文化財)

日本語学研究

日本音声学研究

日本語彙学研究

和歌と俳句鑑賞

中日比較文学研究

言語と文化

(察しの文化、甘えの文化、耻じの文化、縮み志向
の文化)

現時点の広東地域の日本語教育の難点と打開策：

①教授陣が乏しいこと。

広東省の大学日本語学科に教授が20人前後しかいない。ハイレベルでの研究を持つ日本語教育も施行し難い。

②資金が足りないこと。

これは何も日本語学科教員だけのことでなくて、恐らく中国本土での各大学の文系教員の全てに共通する問題ではるまいかと思う。積極的に国・省・市・大学といった縦方向のプロジェクトを申請できない場合、政府や大学からの研究費はゼロに近い。その他に、外国や本国の企業から横方向というプロジェクト申請するしかない。その場合もなかなか難しいことである。両方とも申請に失敗するならば、外国語教員を含む文系教員の研究費は、ある意味でゼロとなってしまう。

③学習意欲が弱いこと。

今日の大学生、とりわけ広東の大学生は、昔（20世紀80年代と90年代前半）の大学生と比べてみると、非常にいい生活環境に恵まれているので、専門分野、とりわけ日本語学習分野での勉学はあまり

意欲は強くないように見られている。どうやって大学生の日本語学習意欲をアップさせるか、これから必ず直面しなければならない課題となる。

④若手教員は学位が低いこと。

若手教員が学位が低くて、その日本語教育の語学力と日本研究の研究力が制限されている。逆にいえば、語学力と研究力を高める必要がある。博士号を取れたとは言え、大多数の博士号取得者は正真正銘の日本語日本文学の博士号ではなく、他の何かの学科の博士号を持っているだけで、本当は日本語教育の面で何の役にも立たない。と言っても過言ではないようである。ただ昇進のため名誉のためのもののものである。この面で大学聯合の主力でもあろう香港の各大学で何か高学位の教員を育成できないかとの私が常に頭に考えている。

若手教員に対する日本語教育方法の施し、トレーニングなどもこれからは実施する必要があると考えておる。実は今回の大学聯合が設立する前に、私どもの組織の業績イベントの第一砲目もこのため行われたのである。即ち、二〇〇九年六月二十七日土曜日に、大学聯合副会長を担当されている香港中文大

学日本研究学系の児島慶治先生を中山大学華南日本研究所へ御招聘して素晴らしいご講演をしていただいた。その主旨は〈広東若手日本語教師向けの日本語教授法〉であった。ご講演のテーマは（１）高級日本語会話教授法と（２）中国国内大学生学習動機や学習環境に対応できる日本語教授法であった。講演参加者は広東省から集まった60名の青年日本語教師である。これを機会に広東の若手日本語教育者のため、高級日本語会話や日本語学科学生とのコミュニケーションの面でお役立てできると確信しておく。従って、大学聯合イベントの第一砲に留まらずにこれからも広東・香港・マカオという三地で日本語教育或いは日本語教育に合わせる日本研究に関する交流を行っていくべきではないかとの場で唱えたくてならない。

日本語能力検定試験について

毎年行われる日本国際交流基金と中国教育部との共催による中国での日本語能力試験については、どういう原因なのかは分からないが、受験者数が多過ぎるため、いつも広東省内では受験申請表は足りない。1990年代、在広州日本国総領事館との相談によ

って大学日本語学科生を優先して受験票申請させたのである。ところがその後、今になって、社会全体の受験者を平等的に取り扱うためなのか、もうそういう優遇策は無くなってしまい、広東省以外のところへはるばると受験に行く学生も出ている。今現在、広州だけでも広東外語外貿大学・華南師範大学・中山大学といった三ヶ所で日本語能力試験が行われているけれども、広東省内の受験者数と比べたら、まだまだ賄えない状態である。

そのため、今回の「香港マカオ広東日本研究大学聯合」の設立というような素晴らしいチャンスを利用して、何かの打開策を考えていく必要があるではなかろうかと思う。その解決方法としては、われわれ大学聯合の努力を通して、広州で受験できない受験者に、香港或いはマカオで受験させられないであろうか。その場合、広東では「広州留東同学会（法人）」が協力していくと思う。

最後に一つのご願いがございます。即ち、大学聯合会員及び本日ご臨席の皆様に『華南日本研究』第3輯へのご投稿をお願い申し上げます。この絵をご覧ください。来年の2月末頃が締切で、6月までに出版する予定。何卒宜しくお願いいたします。

以上、簡単ながらも広東地域における大学日本語教育の現状について皆様にご報告させていただきました。

御静聴ありがとうございました！